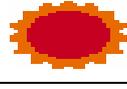
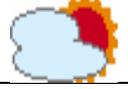


# 1. 景気動向

D I 値（好転と回答した数から悪化と回答した数を引いた値）は、全業種にわたってマイナスで推移している。製造業でわずかながら回復基調の傾向が見られるが、商業関係（卸売業、小売業、サービス業）ではいづれも「きわめて不振」という結果であり、景気の回復には程遠い現状が浮き彫りとなっており、依然厳しい状況が続いている。

		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
		4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月	4～6月	7～9月
		今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高		 68	 48	 30	 20	 50	 50	 61	 42	 43	 38
採算		 67	 62	 29	 31	 42	 42	 47	 44	 32	 32
資金繰り		 48	 48	 20	 23	 33	 33	 35	 35	 35	 30
業況		 43	 52	 28	 30	 50	 42	 50	 44	 45	 27
経営上の 当面する 問題点	1位	官公需要の停滞		需要の停滞		需要の停滞		大型店・中型店の進出による競争の激化		需要の停滞	
	2位	民間需要の停滞		製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		消費者ニーズの変化への対応		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難		製品ニーズの変化への対応		新規参入企業の増加		需要の停滞		利用料金の低下・上昇難	
業種別 コメント		前期に比べて、全項目での設問項目でマイナス値が大幅に増加している。長引く不況と、公共工事の削減により、官民間問わず「需要の停滞」が業況悪化の大きな要因となっており、厳しい経営を強いられる。来期の見通しも悪化すると回答が多く、建設業を取り巻く経営環境は更に厳しい状況が続くものと思われる。		前期に比べ、マイナスで推移しているものの、全項目にわたってD Iのマイナス値は若干減少しており、回答した業種、企業間格差はあるが、わずかながらも属関係を中心に好転の兆しが窺える。しかしながら、依然として「需要の停滞」が経営上の問題点のトップにあげられており、売上げ等の大幅な増加は見込めず、引き続き不透明な状況が続くと予想される。		前期は資金繰りに好転が見られ、今期対しての見通しも明るかったが、今期マイナス結果を見る限り、やはり季節的要因での一時的業況回復であったことが見て取れる。また、問題点の「新規参入企業の増加」から予想すると、従来商圏での競争激化により新商圏進出をした企業と、既存企業との間に競争が生まれてきており業界全体での競争激化が予想される。		前期調査に比べて数値的に採算面でもわずかに改善傾向が見られるが、その他の項目では極めて厳しい結果となった。来期の見通しとしては、ボーナス及び中元の商戦に期待するものの、個人消費の回復は進んでいないため、大きな期待はできないと思われる。大・中型店への購買力の集中傾向から、消費者ニーズに対応した店づくりが今後の課題である。		売上高、採算とも横ばいで推移するものの、資金繰り、業況ともに大幅に悪化しており、個人消費が必要最小限に抑えられており、厳しい状況がうかがえる。ゴールデンウィークでの個人消費も期待したほどの効果は薄く、単価が上昇しないことから来期も同様に推移すると見られる。	

\*表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。

				
とくに好調 (50 DI)	好調 (25 DI<50)	まあまあ (0 DI<25)	不振 (25 DI<0)	きわめて不振 (DI<25)

当所では分析にあたってD・I（好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値）を採用しました。